

平成26年度 第1回学校評議員会 報告

岩手県立宮古工業高等学校

- 1 開催日時 平成26年6月24日(火) 15:30~16:40
- 2 開催場所 本校校長室
- 3 出席者
 - (1) 評議員 伊藤 恒夫(宮古市産業支援センター)
本田 泰三(前PTA会長)
芳賀 健児(会社員)
前川 圭(会社員:同窓会副会長)
 - (2) 学校側 校長、副校長、事務長、総務部長、教務部長

4 内 容

- (1) 校長挨拶
学校経営計画について
- (2) 報告
 - ア 今年度の宮古工業高校
 - イ 学校評価について

5 学校評議員からの質疑・意見等

伊藤 恒夫(宮古市産業支援センター) 様

今年度入社した新入社員で4月22日に辞めた生徒が1人いる。管内で、宮商、宮工、宮水、宮北、山田で約120名くらい入社したが、4月の時点で5名くらい辞めている。例年に比べ辞める生徒は少ない。急に辞めたり、相談も無しに辞めてしまうのは、残念である。辞めるにあたっては社会人のルール、マナーが必要である。会社は、全て経費を使って育成しているのだから、直ぐに辞められると無駄となってしまう。

ある会社で、昨年4名採用、5月の時点で3名辞めた。会社として問題があるのではと原因を考え、その対策として研修期間を長くした。今まで、即戦力として入社させていたが、その考え方から研修をさせるようにした。その結果、今年、11名入社したが、今は辞めていない。使う視点を変えると良いのではないか。

社会に貢献する人材。産学官の連携が大切である。

工業高校は、実習設備がすごい。こういう設備でよい人材を育ててほしい。

資格を取得して入社して欲しい。企業としてのロスが少なくなるからである。

技術者の育成には時間がかかる。

年齢が空洞化している企業もある。

募集人員が1名と記載されていても問い合わせしてみることも必要である。

環境整備(清掃等)が会社に入社してから必要、学校で習慣化させることも大切。

本田泰三（特別養護老人ホーム、前PTA会長）様

宮古工業高校は就職状況（決定時期、質）がとてもよい。
生徒達への躰指導に関しては細かく指導してもらっている。
指導の方向性は、間違っていない。
地域との関わりが必要で、学校が離れているだけにPRの機会をできるだけ多くしていくことが大切である。
女子高生の技術者育成も必要である。
資格取得が良い。男子校というイメージがあるのでは？

芳賀健児 13回生（パンチ工業（株）宮古工場長）様

毎年、宮古工業高校の卒業生は1～2名採用している。
しっかりした生徒が来ているが、辞める生徒もいる。
雪かきボランティアは良いことである。
女性は器用で戦力として大切にしている。
工業高校の場所が市内から離れていてネックであるが、防潮堤の工事でバス停が学校付近にできれば、交通の便がよくなり、通学しやすくなるかもしれない。
管内就職ができるのも工業の強みである。
講師を招いての講習は今後も継続してほしい。

前川 圭 14回生（（株）伊藤住宅設備、同窓会代表）様

挨拶が良い。外部からの評価につながる。
少子化で生徒が減っているなかでの女性の技術者としての活用は大切。
コンピュータを使った制御技術は良い。
中学校訪問なども良い。
授業で学習するレベルが高い。勉強のレベルが高い。だから難しいと思われる。
PRの時代である。